

《温故知新プロジェクト》

台東区谷中における子育て支援環境の現状と課題について—その1—

手嶋 尚人\*

The Present Situation and the Issue about the Social Environment for  
the Support of the Children Raising at Yanaka in Taito Ward

Naoto TEJIMA

1. はじめに

子どもたちを育てること、教育することに地域社会の支援、協力が必要とされることは共通の認識だと思う。しかし、日本の現状を見ると教育と地域社会の関係は年々希薄になっている様に思える。地域社会自体がコミュニティの再生を言われつつなかなか難しい状況にあることも大きな要因といえる。特に都市部での状況は厳しい。また、地域社会にとっても、住み続けられる地域をどう運営していくのかという視点に立った時、地域を支える子どもたちをどう教育していくかといった教育ビジョンはとても大切であり実現させたい課題である。

2. 研究の対象—台東区谷中の概要

本研究の対象地域である台東区谷中は、関東大震災や戦災の影響の少なかったエリアで江戸からのつながりを感じることができる23区内ではとても希少な地区である。コミュニティも戦前からの町会組織が解体されることなく継続されたため、今でも町の核として活動している。

町の運営は、14の町会からなる町会連合会と町会連合会・谷中コミュニティ委員会・2つの商店会・下谷仏教会からなる谷中地区まちづくり協議会が主に担っている。

町での活動は、町会連合会や谷中地区まちづくり協議会、谷中コミュニティ委員会のほか、NPO 法人たいとう歴史都市研究会や一般社団法人谷中のおかってなどの様々な団体によって、伝統的なお祭りはもちろんであるが、芸展や不忍ブックストリート一箱古本市など多くのイベントを行われており、地域内でのコミュニケーションの機会はとても多いといえる。

また、この十数年で急激に多くの散策客が訪れるようになり、雑貨店やカフェ、ギャラリーなどが急増している。そして、谷中界隈の魅力に魅せられ移り住んでくる人も増えており、人口の増加地区である。2016年3月の谷中地区の人口は 世帯数5,826 人口10,574となっている。

3. 研究の目的

本研究では、台東区谷中という都市部にありながら比較的地域コミュニティが良い状況で保たれている地区を対象に子どもと地域との関係の子育て支援と教育ビジョンという視点でその現状と課題点を考察する。そのことによって、広く地域で子どもたちを育てることの意味について考えていきたい。また、この研究が谷中地区の子育て支援環境のネットワーク形成の一助になり、地域での教育ビジョン作成のきっかけとなることを望む。そして、谷中地区が子育て支援環境の先進事例地域となり、全国の地域で子育て支援環境の形成や地域での教育ビジョン策定につながることでできればと考えている。

4. 研究の方法

2015年度の研究として、二つの調査を実施した。

一つは谷中での子育てを支援している団体に対して、ヒアリング調査を行いその実態を調査した。この調査では、それぞれの団体の主旨や活動などを知ることとともに、団体間の連携の現状や今後の連携の可能性について考察を行い、来年度以降の谷中地区における子育て支援環境のネットワーク化へ向けた調査としている。

もう一つは、谷中地区で子育てをする際に関係してくる施設や活動を行う場所、子どもの遊び場などのハード環境について調査し整理をおこなった。そして、今後ワークショップなどの調査活動の際にも活用できる様に、地図にそれらの情報をプロットし、谷中地区のこども環境資源マップとして作成した。このマップを来年度以降も更新し、谷中での子育て環境を視覚化し共有化をやすくしていくことも重要だと考えている。

5. 台東区谷中の子育て支援環境の概要

台東区谷中で子育てをする際に徒歩圏で利用できるスペースについて公（国、都、区）と民間（営利・非営利）に分類し整理を行い、谷中の子育て支援にいかせるハード環境を把握した。

\* 東京家政大学 (Tokyo Kasei University)

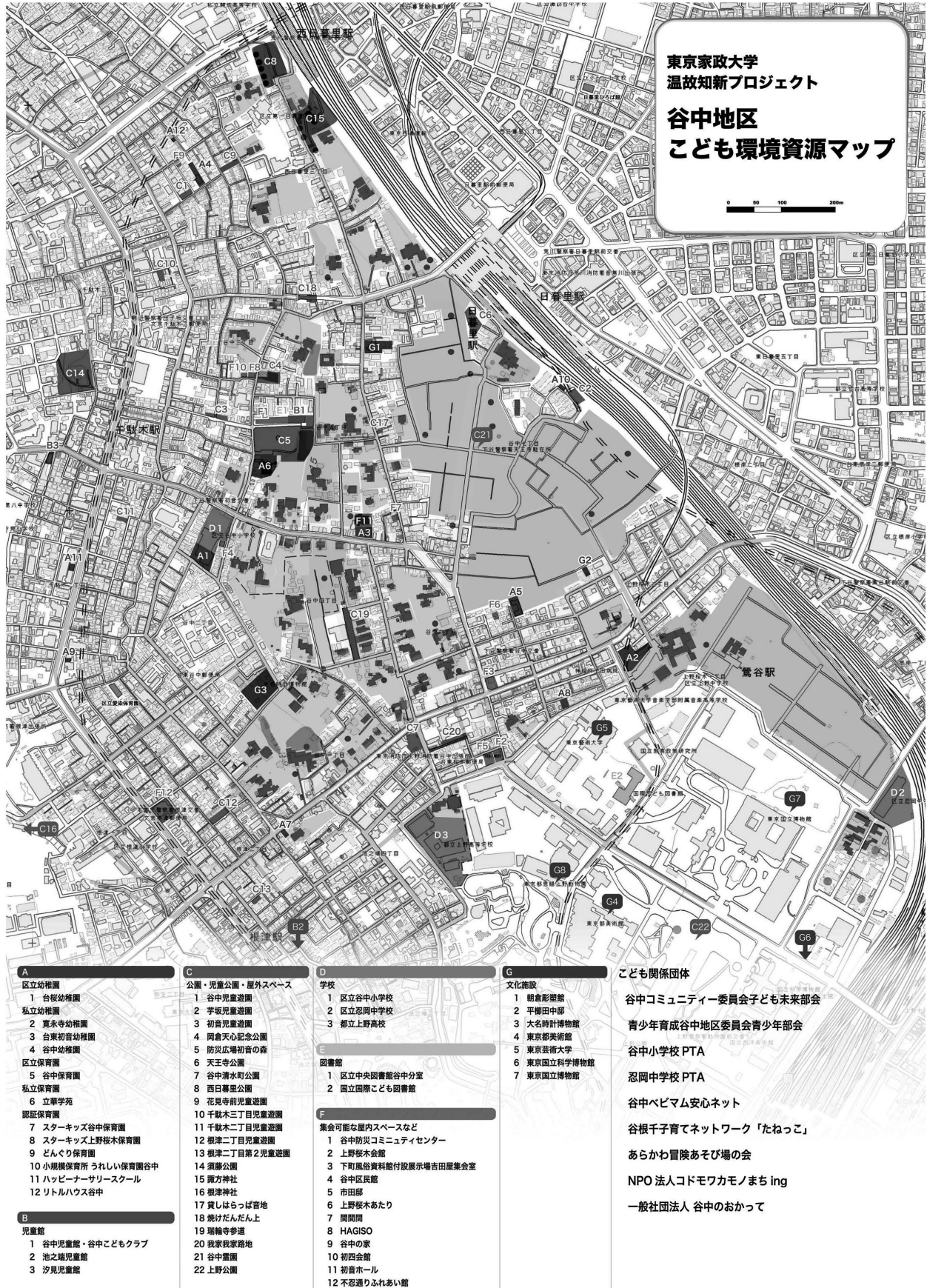


図1 谷中地区こども環境資源マップ (2015年度版)

## 1) 公（国、都、区）が管理運営しているスペース

### (1) 国立

上野恩賜公園／恩賜上野動物園／東京国立科学博物館／東京国立博物館／国立国会図書館国際子ども図書館／東京芸術大学美術館

### (2) 都立

東京都立美術館／都立上野高校／都営谷中霊園

### (3) 区立

上野中学校／忍岡中学校／谷中小学校／台桜幼稚園／谷中保育園／谷中児童館／中央図書館谷中分室／谷中防災コミュニティセンター／谷中区民館／上野桜木会館／下町風俗資料館付設展示場（旧吉田屋酒店）

公園：児童遊園（谷中・芋坂・初音）／岡倉天心記念公園／防災ひろば初音の森／天王寺公園／谷中清水町公園／西日暮里公園

## 2) 民間・営利が管理運営しているスペース

初音幼稚園／谷中幼稚園／立華学苑／認証保育園（スターキッズ谷中保育園・スターキッズ上野桜木保育園・どんぐり保育園）／小規模保育所うれしい保育園谷中／ハッピーナーサリースクール／リトルハウス谷中

市田邸／桜縁荘／上野桜木あたり／間間間／HAGISO／初四会館／初音ホール

諏方神社／貸しはらっぱ音地／夕焼けだんだん上／瑞輪寺参道／我家我家路地

直接的な子育て環境とは言いにくいですが、子育てをする人たちが集える集会機能を持った施設や建物が多くあるのも魅力となっている。

このように概観してみると谷中地区は上野公園や谷中霊園に隣接していることによって緑豊かな環境とともに動物園、科学博物館など国や都の広域施設にも徒歩で行けるという利便性を持っており、地域施設だけでない子育て支援環境としての豊かさを持っていることがわかる。また、今回触れることができなかったが、病院等の医療施設も東京大学病院や日本医科大学病院など大きな医療施設が徒歩圏に有ることも大きな長所となっている。都心部における子育て支援のハード環境としては非常に豊かである。

## 6. 谷中における様々な子育て支援の人たち

2015年度は谷中に関わる子育て支援関係の人や団体に対し、11件のヒアリング調査を実施した。今回の報告では、今後の研究に特に重要と考える8件のヒアリングによって得た概要を記載する。

## 1) 谷中ベビママ安心ネット

主催者の矢嶋桃子さんは谷中の生まれ育ちで大学では発達心理学を学んでいた。谷中での自分の子育てを期に、地域での親の孤立や親子関係の問題等、切実な子育てでの悩みを多く聞くこととなり、それらの問題の解決の糸口となるために、谷中エリアで乳幼児を持つファミリーのための、地域密着型子育て・生活情報サイトである「谷中ベビママ安心ネット」を2011年4月に立ち上げた。バナーとしては「ベビママ主催イベント・地域子育て情報・地域のイベントお祭り」などを作成しており、子育ての緩やかなネットワーク構築をめざし、その為に地域の土壌を耕す「谷中こども文庫」などの地域活動も積極的に行っている。谷中地区の子育て支援のネットワークをつくっていく重要な核となることが期待できる。



写真1 谷中ベビママ安心ネットのトップページ

## 2) 谷根千子育てネットワーク「たねっこ」

靑空自主保育の会として2007年より台東区社会教育団体「親子でどんぶらこ」の名前で活動を開始。その後「たねっこ」に改名し現在に至る。自主保育、つながり、縁、プレーパーク（冒険遊び場）、シュタイナー、どろんこ、ご近所づきあい、おすそ分け、異年齢の関わり、森、たき火、木登り、まかなう、醸す…をキーワードに活動を行っている。谷根千子界隈の様々な場所で活動を行っているが、定期的な活動場所としては、市田邸、西日暮里公園、防災広場初音の森がある。主な活動内容は、自然とのかかわりや人の縁を大切に、「毎日外遊び」「わらべうたの会」「にじみ絵の会」、また、食育も重要なテーマとしており「母ちゃん食堂」というのも実施している。他の地域活動とも盛んに連携し、特に「あらかわ冒険遊び場の会」との関係は密である。参加者共有の子育てビジョンを持っており、今後地域での子育て・教育ビジョンを考える際の一つの指針となりそうである。



写真2 市田邸で活動する「たねっこ」

### 3) あらかわ冒険遊び場の会

2009年5月に設立。西日暮里公園を拠点に冒険遊び場の考え方を中心に毎月第2日曜日自主的な活動を行っている。月一度の活動であるが、かなり本格的な活動が繰り返されている。たねっことの協働事業も多い。



写真3 西日暮里公園で行われているプレーパーク

### 4) NPO 法人コドモワカモノまち ing

代表の星野諭さんは、妙高の自然の中で育ち、大学進学とともに東京に出るが、子どもを取り巻く環境に危機感を覚えた。「子どもと一緒にデザインしよう会」を2001年に結成するなど学生時代より子ども環境に携わる。2008年結婚と離職を機に現在のNPO 法人コドモワカモノまち ing を設立。本格的に活動を開始する。

主に0～20代の子ども・若者を対象に遊び・教育・環境・防災・建築・福祉・食・まちづくりなどの多分野で、都内を中心に全国で活動をしている。東日本大震災後の子ども支援でも大きく評価されている。

事務所はアーツ千代田3331（外神田）に置いているが、星野さんの住まいは谷中にあり、活動は谷中の防災ひろば「初音の森」を一つの主な拠点として展開している。2015年度は東京子育て応援事業の一環として「まちの縁側 四世代あそびデー」を谷中の防災ひろばで4回ほど実施し

た。

とても視野の広い活動を行っており、様々な団体との協働事業も行えそうである。谷中地区での子育て支援環境を充実させて行く重要な役割を担ってもらえそうな団体である。



写真4 谷中防災ひろば「まちの縁側四世代あそびデー」

### 5) 一般社団法人谷中のおかって

2008年に東京藝術大学の熊倉純子研究室の学生やアートマネジメントに関心のある社会人ボランティアスタッフが集い「谷中のおかって」として活動開始（2010年に一般社団法人となる）。

「妄想」と「ミックス」をキーワードにアートを中心に活動を行い、2011年より台東初音幼稚園を会場にこども創作教室「ぐるぐるミックス」をはじめ。アーティストきむらとしろうじんの指導のもと、メンバーの大西健太郎さんがファシリテーターとなり、子どもと大人が一緒になって「あそび」をうみ出す場を目指した。子どもとまちの大人がアートを通して出会う考え方は本研究に重要な示唆を与えてくれる。

### 6) 谷中コミュニティ委員会こども未来部会

谷中地区のまちづくりを大きく担っている谷中コミュニティ委員会の一部会として活動している。メンバーはコミュニティ委員と児童館職員で構成されている。目的としては子どもたちとまちでの他世代との交流をあげており、年間イベントとして、「こども囲碁大会」四才から中学生、「七夕交流会」幼児～お年寄り、「映画上映会」どなたでも、「防災アウトドア教室」幼児～大人を定期的に行っている。また、「敬老のつどい」「かえっこ」「おはなし工作会」など他部会や児童館、図書館主催のイベントにも積極的に協力している。各町会と子どもをテーマに横断的につなぐ役割を担っており、町会などの谷中地区の伝統的な組織と新しく住み込んでくる住民とのパイプ役ともなっている。今後その役割はより重要となりそうである。

## 7) 台東区谷中児童館

2015年に谷中防災コミュニティセンターの開館とともにそのセンター内に池之端児童館の分館が独立し谷中児童館としてオープンした。社会福祉法人台東区社会福祉事業団が指定管理者として運営し、谷中こどもクラブ（学童保育）を併設している。スタッフ数は児童館（館長1、常勤2、非常勤4）、こどもクラブ（常勤3、非常勤3、定員70人）である。

館の特色としては、広い防災ひろばに隣接しているので野外での活動も盛んであり、その環境の良さから広域の子どもたちが集まって来ている。また、谷中小学校、上野中学校、青少年育成谷中地区委員会、こども未来部会との連携はもちろんコドモワカモノまちingとも協力関係にあり、地域とのつながりを大切にしている。台東区の他の児童館との合同事業も行っている。

## 8) 台東初音幼稚園

谷中観智院の境内に1949年創立された谷中を代表する幼稚園。特に幼児期の情操教育を重視しており、精神と身体のバランスのとれた発育をねらいとしている。前住職は声楽家（東京藝術大学名誉教授）であり、現住職は剣道の達人である。課外活動として、ピアノ教室、絵画教室、体操教室、剣道教室など充実している。また、谷中のおかってと協力関係にありぐるぐるミックス（こども創作教室）も課外活動の一つとして位置づけられている。今年度は園内でアートプロジェクトを行うなど芸術表現を積極的に教育に取り入れている。

境内で町会の盆踊り大会を行ったり、初音ホール（音楽ホール）を地域で利用させてくれたり、地域に開かれた寺院・幼稚園として親しまれている。

## 7. 地域で支える子育て支援の先進事例調査

2015年度の調査研究では主に木育をテーマとしたまちづくりを実践している岐阜県美濃市とお母さんのグループから発展し地域ぐるみの大きな子育て支援組織を創り上げた葦崎市にある「NPO 法人ちびっこはうす」のヒアリング調査を行った。

岐阜県美濃市には2001年に県立林業短期大学より改組した県立森林文化アカデミーという専修学校があり、木の文化へ対する育成が盛んなところである。今回、地方活性化センターが主催し、県立森林文化アカデミーが中心となり地方創生実践塾を開催した。それに参加することで、木育をテーマとしたまちづくりについて調査を行った。木育が単に木のおもちゃに留まらず環境や森のようちえんなど幅広く展開し、木育と言うことで地元の多くの活動団体がネットワークされている様子がわかった。木育も一つの教

育ビジョンでありそれによる求心力とネットワークという点で谷中地区での参考となった。

「NPO 法人ちびっこはうす」が指定管理者として管理運営する葦崎市子育て支援センター「にらちび」と社会福祉法人として管理運営する甲府市にある「ちびっこはうす保育園」のヒアリング調査を行った。「NPO 法人ちびっこはうす」は、共に子育てをするお母さんグループから始まり、2万人規模の「こどもの城フェスタ」や毎月1万3千部無料配布される子育て情報誌「ちびっこぷれす」など様々な事業展開と地域に拠点を置く子育て支援センターや保育園の管理運営を行っている。谷中地区よりずっと広域を対象としているがその活動はとて地域密着型でありボランティアや学校などの地域の人資源を見事に活用していた。それがこの組織の広がりであり継続性であると感じた。また、子育て支援対象の年齢幅も大きく、中高生を子育て支援の対象としてだけと位置づけるのではなく、将来子育てを行う親として子育ての重要性を伝えているという考え方にはとても共感できた。地域の教育ビジョンという点ではよくわからなかったが、地域での組織のつくり方、運営の仕方という点でとても参考となった。



写真5 葦崎市子育て支援センター「にらちび」

## 8. ま と め

2015年度の調査研究では以下のことが成果と課題としてあげられる。

子育て支援環境としての谷中地区の概要が確認され、いくつかの子育て支援の活動団体の成り立ちや主旨、内容を知ることができたが、まだ、全体を十分に把握することはできておらず、2016年度の調査でも活動団体や幼稚園、保育園へのヒアリング調査を継続し、子育て支援のネットワークが構築できるようにしていきたい。

活動団体の主旨、内容に違いがあることによって、子育て支援環境の多様性が生まれており、それぞれの不足分を補える活動となると良い。また、個々に活動した方が良いテーマと協働することでより効果があるテーマ等も見えて

きている。ネットワーク構築上そうしたそれぞれの活動団体の特性を活用することは必須である。さらに、地域の子育て支援環境としては、中高生への支援も必要である。今年度調査できなかった青少年育成谷中地区委員会が中高生の支援は担っている部分が大いと考えられ、中高生への支援の研究調査も今後の重要なテーマと考えている。

今後の研究調査のベースとなる人間関係を構築し、正確な地域の状況や要望を把握し、より地域のために必要な研究調査としていきたい。そして、研究調査に留まることなく、谷中地区での子育て支援のネットワーク構築や谷中地区での教育ビジョン策定などの活動に結びつく研究調査となればと考えている。

### ■ ヒアリング調査記録

2015年11月7日

本日さよ氏（台東区区議・子育て支援と区別委員会副委員長）

2015年11月27日 谷中ベビママ安心ネット

矢嶋桃子氏（代表）

2015年12月22日 谷中ベビママ安心ネット座談会

矢嶋桃子氏、長谷川綾子氏、高瀬杏子氏

2016年2月10日 谷中コミュニティ委員会こども未来部会

橘 光氏（こども未来部会長）

2016年2月19日 台東区児童保育課

上野守代氏（児童保育課長）

2016年2月19日 台東区谷中児童館

大沼真由美氏（谷中児童館館長）

2016年2月20日 台東初音幼稚園

高橋海有氏（台東初音幼稚園長）

2016年3月23日 谷根千子育てネットワーク「たねっこ」

藤原紅子氏（以倉敦子、相川優子、川出美華）

2016年3月23日 あらかわ冒険遊び場

小宅くう氏

2016年3月25日 NPO コドモワカモノまち ing

星野 諭氏（代表理事）

2016年3月28日 一般社団法人 谷中のおかって

渡邊梨恵子氏（代表）

### ■ 先進事例調査記録

2015年10月21日～23日（地方創生実践塾）

岐阜県美濃市 木育によるまちづくり

2015年12月8日 東京おもちゃ博物館ヒアリング

多田千尋氏（同館長、日本グッド・トイ委員会代表理事）

2016年3月18日 ちびっこはうす

山梨県韮崎市 内藤香織氏

2016年3月18日 ちびっこはうす保育園

山梨県甲府市 松本恵子氏